

風水害対策

雨の強さと降り方

やや強い雨

10mm以上～20mm未満
雨の音で話し声が良く聞き取れない。



●ザーザーと降る

強い雨

20mm以上～30mm未満
ワイパーを速くしても見づらい。側溝や下水、小さな川があふれる。



●どしゃ降り

激しい雨

30mm以上～50mm未満
山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。



●バケツをひっくり返したように降る

非常に激しい雨

50mm以上～80mm未満
マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。



●滝のように降る

猛烈な雨

80mm以上～
雨による大規模な災害の発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要。



●恐怖を感じる
●息苦しくなるような圧迫感がある

台風

日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらします。台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

大きさ	風速15m/s以上の半径	強さ	最大風速
大型(大きい)	500km以上800km未満	強い	33m/s以上44m/s未満
超大型(非常に大きい)	800km以上	非常に強い	44m/s以上54m/s未満
		猛烈な	54m/s以上

10m/s以上～15m/s未満

風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。



15m/s以上～20m/s未満

風に向かって歩けない。転倒する人もいる。



20m/s以上～25m/s未満

しっかりと身体を確保しないと転倒する。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。



25m/s以上～

立ってられない。屋外での行動は危険。樹木が根こそぎ倒れはじめる。



注意報・警報

強風注意報・暴風警報

強風注意報:

平均風速が13m/sと予想される場合

暴風警報:

平均風速が18m/sと予想される場合

大雨注意報

大雨によって被害が起こるおそれがあると予測される場合

- ・表面雨量指数基準 10
- ・土壌雨量指数基準 90

大雨警報

大雨によって重大な災害が起こるおそれがあると予測される場合

- ・表面雨量指数基準 23
- ・土壌雨量指数基準 126

記録的短時間大雨情報
1時間に雨量100mm

上記に併せて、洪水注意報・洪水警報が発表されます。

避難は自ら判断を

災害が迫ったとき、置かれた状況は一人ひとり違います。それぞれが自ら判断し、適切な行動を取らなければなりません。



①水平避難 危険な状況のなかでの避難はできるだけ避け、安全の確保を第一に考えます。危険が切迫している場合は、指定された避難場所への移動だけでなく、命を守る最低限の行動が必要な場合もあります。



①水平避難



②垂直避難

②垂直避難 屋外への移動は危険です。浸水による建物倒壊の危険がないと判断される場合には、自宅や近隣建物の2階以上へ緊急的に一時避難し、救助を待つことも検討してください。

命を守る
最低限の行動を